

36. 小袖について

——その発展過程の一考察——

大阪市立大 中島 清子

先に、小袖発展の萌芽期として室町時代を指摘し、その基盤の解明に重点をおいて、小袖における意匠表現や選択は、当時の時代精神に根源していることを明らかにしようと試みた。即ち、室町時代における小袖様式の成立は、人間性の自覚にもとづく主観的な態度から生まれたものであり、更に彼等の美的欲求は、小袖に対しても簡素とも枯淡ともいわれるべき美意識を潜在させ、簡素化された被服形態を土台として新しい美の可能性を発見し未来への展開を導いたのである。その後、小袖は時代の進展と共に、桃山小袖や慶長小袖或は元禄小袖といわれるもの等に見られるように、新しい意匠を要求し、より高度な技術を使用して、豪華な華美なものへと発展したのである。これら発展過程の一段階として桃山時代・江戸時代初期の小袖における現象を捉え、それを社会的・歴史的な基盤と関連づけながら、その発展的意味を問い、より全体的な原理を探ろうとするものである。